

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・中間評価・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の幅広い進路希望やニーズに対応した教育課程を編成する。 基礎学力の定着と発展的学習による学力の向上に合わせた学習指導を充実させる。 生徒の主体的・協働的な学習への取組を充実させる。 学校行事や生徒会活動等の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、希望する進路を実現するため、日々の学習活動に主体的に取り組むようになる。 生徒が、主体的に、学校行事や生徒会活動等に取り組むようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒による授業評価を年に2回以上実施する。各教科で積極的に研究授業を実施する。指導内容の工夫、少人数学級編成による授業展開や組織的計画的な授業改善により、基礎学力の定着と発展的学習への積極的な取組への支援を行う。 ②課題を解決するために必要な諸能力を育成できるように授業内容を工夫する。 ③体育祭や文化祭等の学校行事や生徒会活動において、生徒の自主的な取組ができる支援体制を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒に基礎学力の定着がみられ、発展的学習への取組が十分になされたか。 生徒による授業評価 ②課題を解決するために必要な諸能力が育成されたか。 生徒による授業評価 ③学校行事や生徒会活動への生徒の参加が積極的、また、自主的な活動となっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ②生徒による授業評価を2回実施した。マークシートを導入し集計作業の効率化が図れた。 ②授業作りプロジェクトの活動で授業に遅刻してくる生徒への対応で入室許可証を導入した。 ③体育祭の種目決定に生徒実行委員会が関わり、新しい種目を導入した。文化祭では、入場門アーチ制作や開・閉会式運営を実行委員中心に行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ②マークシート読取りのシステム構築や、職員へのマニュアル周知などが今後の課題である。 ②入室許可証の手続きを踏むことや教職員による声かけで、生徒の意識改善を図るとともに、更なる授業改善につなげるよう継続して取り組む。 ③生徒会役員、行事実行委員、委員会の役割分担を明確にしながら、生徒中心の学校行事をさらに支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②発展的学習への取組が十分になされ、課題を解決するためにアクティブラーニングを実践している。 ③学校行事である体育祭では、生徒が主体的に取り組む運営していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートでは75%の生徒が、思考力・判断力・表現力が高まったと感じている。一定の成果が上がっている。 ③生徒会生徒の自主的な発案で広報誌の発行を実現させるなどの成果が上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業や日々の授業実践で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 ③引き続き、生徒の自主性を育むよう行事支援を行う。
2 生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。 基本的生活習慣の確立と授業規範や生活規範の向上を目指す。 個々の生徒に応じた相談体制の充実と、安心して学び充実感の得られる学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が部活動に主体的に取り組めるようになる。 生徒が基本的生活習慣を身に着ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が部活動に主体的に取り組むことができる支援体制を整備・充実させる。 ②頭髪、服装、遅刻指導等の日常の生徒指導を、生徒との対話を通じて粘り強く実践していく。遅刻をしないことが社会生活を営む上での基本であるとの認識に立ち、全教職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ①活動への加入状況に向上がみられたか。また、主体的な活動となって充実しているか。 ②毎月の遅刻数の統計。また、服装、頭髪が改善されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動への加入状況は横ばいであるが、部活動で主体的に地域交流等に参加し、充実している。 ②頭髪、遅刻指導を強化し、生徒の基本的生活習慣の確立に対する意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動の加入率向上のため、引き続き、活動内容の充実に向けていく必要がある。指導しやすい体制づくりを目指していく。 ②引き続き、職員全員で生徒の基本的生活習慣の向上に向けての共通の意識、指導を徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①弓道部、ボクシング部の関東大会出場等に素晴らしい実績が上がっている。 ②先生の朝の立ち番等の生徒指導が充実し、毎月の遅刻数、服装・頭髪が改善されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全体の加入率は横ばいであるが、積極的に取り組んでいる生徒は多い。 ②職員及び生徒・保護者が一体となって取り組み、服装・頭髪改善に成果が上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動加入率向上に向けて、仮入部期間や登録方法を見直すなど組織的な改善を行う。 ②生徒の基本的生活習慣改善に向けて、メンタルケアも充実させる。
3 進路指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりのキャリア諸能力の段階的な育成を目指し、生徒の主体的な進路選択と進路実現の一層の支援を図り、生徒が自らの将来を切り拓く力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が個々のキャリア諸能力を段階的に高める。 生徒がそれぞれの進路実現に向けて、主体的な進路活動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学年及び3年間の「キャリア教育実践プログラム(進路指導計画)」の検証と改善を進める。 ②学力テスト(スタディサポート・学力判定テスト)の検証と改善を図る。 ③英語4技能民間検定(GTEC)を円滑に導入する。 ④「進路のしおり」の改善と活用を進める。 ⑤進路室及び生徒自習コーナーの整備と改善を進める。 ⑥キャリアガイダンス(進路指導ガイダンス)や研修、進路指導情報の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③生徒が「キャリア教育実践プログラム」を通してキャリア諸能力を高めることができたか。 ④⑤⑥生徒がそれぞれの進路実現ができたか、もしくは進路実現に向けて主体的な活動ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②③学年ごとに学力テストを含め、本校「キャリア教育実践プログラム」にそって進めた。英語4技能民間検定(GTEC)の円滑な導入を行った。 ④①②の達成のため「進路のしおり」の改善と活用を進めた。 ⑤PC及びプリンターを導入し進路室の整備をさらに進 	<ul style="list-style-type: none"> ①②常に生徒と社会の情勢の変化を察知し、必要な情報を入手して、対応する必要がある。 ③2020年度大学入試を見据えた正確な情報収集と対応策を準備する必要がある。 ⑤生徒の需要に対応した進路室の整備を進める必 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートでも80%の生徒が満足していることを見ても、「キャリア教育実践プログラム」が充実している。 ⑤さらに生徒の進路実現に支援体制の整った進路 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学年の段階に応じた体験型のキャリアガイダンスが充実し、生徒アンケートから見てもキャリア諸能力育成に一定の成果が上がっている。 ⑤生徒の主体的な進路選択をさせるためにも、進路室整 	<ul style="list-style-type: none"> ①スタディーサポート等外部の実力判定検査導入3年目となり、成果と検証を次年度に生かせるようにしたい。 ⑤進路室及び自習室の設備整備をさ

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価(3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
						めた。	要がある。	室整備を進めるべきだ。	備を進める必要がある。	らに進める。
4	地域等との協働	・保護者や地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	・生徒が地域に学校の魅力を発信する。	①学校説明会、体験入学において生徒が自主的に学校の魅力を発信していく場面をつくる。	①学校説明会、体験入学でのアンケート調査で確認する。	①体験入学1回、学校説明会2回実施で生徒が自主的に本校の魅力を伝えた。	①授業体験においても生徒が関わられる場面を探っていきたい。	①生徒の地域連携へのニーズを調査し把握するべきだ。	①学校説明会で、生徒が司会進行を務め生徒の姿を発信することができた。	①学校説明会に限らず、様々な場面で生徒に学校の魅力を発信させる。
5	学校管理 学校運営	・教職員の実践的指導力を高め、安全対策を強化し、信頼される学校づくりを進める。	・生徒が自然災害を含む危機管理能力及び知識を身につける。	①避難訓練で安全点検マニュアル・防犯マニュアルを確認し、日常の学校施設設備等の安全点検に努める。 ②主体的に的確な安全行動がとれるよう「シェイクアウト」及び避難訓練を実施する。 ③DIGを含め年数回の防災教室を実施する。	①学校施設設備の安全点検は日常的になされたか。 ②大規模地震・火災が発生した場合を想定し、その時とるべき行動を自ら考えられたか。防災チェックシート・アンケートで確認する。 ③災害時に必要な能力を身につけることができたか。アンケート等で意識の向上を確認する。	①学校施設の安全点検・防災施設機材の補充を行い、日常の安心安全な学校づくりを進めた。 ②シェイクアウト訓練を実施し、生徒たちが主体的に安全な行動を行うことができた。また、事後学習によって防災について再確認できた。 ③DIGを含め、防災教室を年に4回実施し、初回に比べて回数を重ねるごとに生徒たちがより主体的に安全な行動をとることができてきた、アンケート結果により60%以上の生徒が防災に対するより高い意識をもっていることが分かった。	①安全点検マニュアルの運用に努め、さらに、横浜市都筑区と協同し防災初動マニュアル等を完成させていく。 ②みどり養護分教室とも連携し学校全体で行えるよう年間計画を立てていく。 ③学校単独での防災教室から地域との合同防災教室(訓練)に実施に向けて協議していく。	①生徒の防災に関する様々な取り組みに積極的に参加している。 ②特別支援学校分教室と連携した訓練をおこなうべきだ。	①防災訓練やDIG訓練で、生徒の防災意識の醸成を図った。生徒アンケートの結果では危機管理意識が身についた生徒が60%以上になった等、一定の成果を上げた	①生徒の危機管理能力をさらに高めるために、防災教育に主体的に関わることができるよう内容に改善を図る。